

海津木苑運営委員会（令和2年度6月期）

会議録

1. 日 時： 令和2年6月24日（水）15時00分 開会
2. 場 所： 古賀市役所 第2庁舎 501会議室

3. 出席委員（13名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	簗原 弘二
委員	内場 恭子	委員	内平 晃二
委員	清原 秀則	委員	清原 透
委員	安武 正一	委員	森 里子
委員	横田 昌宏	委員	河北 吉昭
委員	星野 孝一		

4. 欠席委員（三好委員）

5. 傍聴者数（1名）

6. 事務局出席職員職氏名

古賀市長	田辺 一城	市民部長	清水 万里子
環境課長	智原 英樹	海津木苑長	吉田 義昭
海津木苑職員	三好 弘実		

概要

15:00 開会

1. 委嘱書交付
2. 古賀市あいさつ
3. 運営委員会委員・自己紹介
4. 事務局及び海津木苑職員自己紹介
5. 施設経過の概要・協定書・覚書・設置条例・管理運営規則・運営委員会設置規定について
6. 委員長・副委員長の選出(事務局より説明)

[提案]

環境課長： 通例ではあるが、古賀市議会より代表で出席されている市議会議長である結城議長に委員長をお願いしたいが、質疑、意見のある方はおられないか。

[質疑・意見] なし

[提案]

環境課長：古賀市議会議長である結城議長に委員長をお願いし、推薦したい。

[回答]

委員：異議なし

環境課長：委員長は結城議長にお願いすることになった。よろしくお願ひする。

[提案]

環境課長：続いて、副委員長の選出をお願いする。

[意見]

委員：清原留夫氏に副委員長をお願いしたい。次期新し尿処理施設建設に向けての協議もあることから、また経験も豊富であることから、清原留夫氏に副委員長をお願いしたい。

[提案]

環境課長：清原留夫委員に副委員長の推薦があった。委員の皆様はよろしいか。

[回答]

委員：異議なし

環境課長：副委員長は清原留夫氏にお願いすることになった。よろしくお願ひする。

7. 委員長あいさつ・副委員長あいさつ

委員長あいさつ

今回で6年目の委員長になるが、皆さんには迷惑をかけることばかりで恐縮している。幸いにも副委員長に清原氏がなったということで大変心強く思う。二人三脚でやっていきたい。

副委員長あいさつ

いよいよ高齢で、もう体力的にも気力的にもすべて限界ということで委員になる段階から強く辞退をお願いしたが、なかなか聞いていただけなく、席をおくことになった。務まるかどうかはわからないが体に十分注意しながら行っていきたい。

私の願いや思いを少し話させていただきたい。私の人生約半分は古賀市のし尿処理施設に身を投じたのではないかと思う。1970年（昭和45年）同和対策特別処置法が施行され、解放運動が活発に行われるようになる。それ以降、旧し尿処理施設の公害と差別の問題で闘いが始まった。

1980年（昭和55年）に地元にし尿処理施設を建設させてほしいということで、行政よりお願いがあった。し尿処理施設建設に真っ向から皆さん

反対で、特に反対されたのは、子どもを持つお母さんたちだった。それは何故かというと、子どもたちが旧施設の二の舞を踏んで差別を受けるのではないかと考えられたからだった。ところが多くの先輩たちが私に、このし尿処理施設建設を受けて解放運動を進めたらいいのではないかと、多くの先輩たちにアドバイスを受けたことを絶対に忘れていない。支部の皆さんや区内の皆さんと連日連夜協議をした。そういう経過のもとに昭和56年の3月24日、調印を行った。そのときは、古賀町も必死だった。今の施設がある場所は当時ミカン畠で、現在の浜大塚線の道路と施設の場所は谷だった。町の努力と色々なことが重なり合い建設され、食品加工団地ができ、更にJRと美明の開発等取り組んできた。これは多くの亡き先輩たちのおかげであると今でも思う。今回、古賀市は現在の場所に、当初は25kl/日だったが福津市が入り52kl/日の施設ができる。確かに施設に対する市民の意識は変わった。しかし部落差別をはじめとする人権問題については今からではないかと思う。そう言った意味で行政側もしっかり取り組んでいただき、先輩が描いていたすべての人権問題の先端として大きく海津木苑が動いて行けばと思っている。そう言った意味で自分の健康に留意し、結城委員長の補佐として頑張っていく。

8. 協議事項

- 1) 会議録について (事務局より説明)

令和2年度6月期会議録署名 (結城委員・清原秀則委員)

[質疑・意見] なし

- 2) 海津木苑運営に関する実施状況 (事務局より説明) 資料.1

- (1) 令和2年度4月及び5月の処理状況について

令和元年度処理状況について

配布資料

- 3) 令和3年度～令和24年度し尿等排出量推計について

- (1) (①古賀市・②福津市・③古賀市+福津市)

資料.2

[質疑・意見] なし

- 4) 令和2年度第1回目臭気測定について (7月実施予定) 資料.3

・実施日 7月21日(火) 予備日 7月29日(水)

調整日時 7月21日(火)、7月29日(水)、7月30日(木)

・立会人:(簗原委員)(清原透委員)

- 5) 海津木苑施設等啓発について (事務局より説明) 資料.4

9. 報告事項

次期し尿処理施設について

・汚泥再生処理センター整備事業について

資料.5

・古賀市次期し尿処理施設に関する事前打ち合わせ（第24回）日程調整中

[質疑]

委員 : 新型コロナウイルスの感染拡大で、家庭の方では自粛があったが、搬入量については大きな変化は見られないと思うが、影響があったかどうかを伺いたい。もう一点、下水にコロナウイルスが見られるところがあると言う事だが、し尿の方にも影響があるのではないかと思うが、そういった研究や予防策等検討してはいるのか伺いたい。

[答弁]

海津木苑長： 一点目の搬入量に影響があったかについては、極端にはない。4月分の搬入量で言えば、浄化槽汚泥 681.2 k 1 で平年値よりは多い数字になる。浄化槽を設置している家庭が年1回浄化槽法で清掃を行う義務がある。年度末から年度初めに浄化槽の清掃を行う家庭が多いことから数字が多くなっていると判断する。

コロナウイルス関係で処理に影響がないのかというところで、下水からコロナウイルスが検出されたニュースであったが、し尿中にコロナウイルスが入って海津木苑の方にもコロナウイルスが搬入されていることを考えた場合、手で直接触ることはないと、沈砂除去作業を行う箇所があるのでゴム手袋・ヘルメット・メガネの着用等をし、作業を行うようこれまで以上に作業を徹底し、行っている。

[意見]

委員 : このように尋ねたのは、職員の方の健康状態が気に掛かるもので、私が所属する市民建産の常任委員会で確認したが、海津木苑の職員は現在2交代制で施設の管理運営を行っているとのこと。もし、第2波がきて、職員1人でもコロナウイルスに感染した場合、2交代制が続かない。1つの班に負荷が掛かるのではないかと思うので予防策というものを徹底して行って頂きたい。その為には、シールドであったり防護服等を十分準備できているのかというのも心配であるし、職員の体制にしても補助等できる方を増やしていくかないと1年くらいでは収まるものではないと思う。どこで誰が感染してもおかしくないということを考えるとある程度の体制や備品等の準備を考えていかなければならぬと思うので十分に検討願う。

[質疑]

委員 : 鹿部区組長の啓発を行い、全組長の参加があったのかお聞きしたい。

[答弁]

委員 : 鹿部区において、毎年新任の組長に海津木苑に関する研修をしている。現在12名の組長で、留任が1名いる。研修当日は全組長12名の参加であった。

[質疑]

副委員長 : 「生命光る町に」を市は啓発のシンボルとして作成しているが、作成するという考えはないのか。啓発に関することに一切触れていないが市はどのように考えているのかお聞きしたい。

[質疑]

委員 : 建物はいいが、中身のソフトの部分をどうするかというのが全然見えないのでどのように考えているのか尋ねる。

[答弁]

環境課長 : 苑長より説明があった資料5については、予算に絡む今年度の事業の予定計画を報告したところである。啓発については、市長の挨拶にもあったが、啓発を推進する一拠点としてしっかりと位置づけてというところで担当課としても、より一層充実したものにするために検討している。覚書の中で啓発をどう進めていくか、地元の思いもしっかりと受け止め進めていく。

[意見]

委員 : 啓発のソフト面と、ソフトを推進していくためにハードも必要になると思う。ハードになると建築である。ソフト及びハードを含めて基本的に設計の中に入れ込むべきである。

[質疑]

副委員長 : 課長の説明ではそうですかということにはならない。今のところ、啓発について市は考えていないのではないかと受取るから尋ねている。映画でも作成したらどうか。工程と同時に進めて行かなければと思う。市はどのように考えているのか尋ねる。

[意見]

委員 : 副委員長からも出たが、海津木苑建設時に「生命光る町に」を作成しているが、昭和・平成・令和となって、新施設建設についての協議にあたり、予算化をどのように進めて行くかと言うところを地元としても同時進行で、「生命光る町に」の令和バージョンを検討願う。地元で行う新組長の研修でもビデオを見て少し古さを感じると言う意見も聞かれることがある。

[答弁]

市民部長 : 啓発については、当然行っていくものであるし、時代に合わせ、何が効果的なかを検討しながら、また地元の方々と協議をしながら良い方法を考えてきた

い。具体的に本日ご提示できるものはないが地元の皆さんと協議をしながら、過去の歴史からこれからの展望といったところが分かりやすいものをいかにして作り上げていくかということについてしっかりと検討していく。

[意見]

委員 : ソフトがないとハードができない。まずソフトの面をどういったことをやりたいのか、中身を検討の中に入れてほしい。

[質疑]

委員 : 施設に関することで伺いたい。資料5の汚泥再生処理センター整備事業と全体を表してあると考える。古賀市、福津市が関わるが、整備事業に対し全体の予算というものがあると思うが、これに対するお互いの負担の割合がある程度決まっているのか、これから協議をするのか、今年から移設工事や仮設工事にかかるので今から決めるというのでは遅いのではないかという気がする。

令和2年度の黄色部分に②として発注仕様書等作成委託と書いてある。業者に発注するための準備をされると言う事だと思うが、地元の方からもこういった施設を作つてほしい、こういった内容を入れてほしいという要望を出してもらっている。仕様書を作成するときには地元も是非協議をさせて頂きたい。

[答弁]

環境課長 : 古賀市・福津市共同で処理するにあたっての負担の割合についてだが、施設については古賀市の施設として建てる。福津市のし尿を受け入れて処理をするにあたり、建設の時から分かっている事で、かかった経費の約半分を福津市、(27k1古賀市・25k1福津市)が負担する。古賀市において事務を行うことから、事務の委託を受けるということでお互いに議会で承認を頂き事務処理にかかる費用については古賀市と福津市、半々という事務規約をお互いで作成した。

仕様書の発注をコンサルに委託し作成しているが、大枠のところまでしかいない。代表者会で意見を頂くものについては進捗状況に応じて意見を頂く場をつくりていく。

[質疑]

委員 : 福津市との負担の割合、決め方が非常に複雑なところがあるので理解に苦しむところがあるが、ほぼ半々位になるという認識でいいか。

[質疑]

委員 : 人権啓発のあり方というものが今後になるということだが、地元の要望も十分に話しながらということになると思うが、現時点での福津市との人権啓発の基本方針のあり方、福津市が人権啓発に現状どのように取り組んでいるのか、人権啓発についてどのように考えているのか、福津市としての人権啓発に関する要望など古賀市との意見交換が出来ているのか、今後どのようにしていくのか。古賀市

の施設ではあるものの、福津市と一体となった人権啓発にしていくべきではないかと思うので、現状のヒアリング状況を尋ねる。

「生命光る町に」当時撮られた映画、非常に貴重な映画だと思う。建設のドキュメントも含めたようなものの作成等も今後の地元協議で協議したい。

[答弁]

環境課長 : 福津市の啓発取組状況については、昨年度7月に福津市の分も含み交付金申請にあたり、前提条件として話している。古賀市がこれまでし尿処理についての人権課題の大きな問題の1つとして、啓発を進めてきたことについて福津市においても啓発を進めてもらう体制はあるのかというところの確認を取ったうえで一緒に処理を行うということで、初めに確認した。古賀市における撤去・受入の話については担当課のウミガメ課については研修を実施した。全体的には実施できていない。今後どのように福津市への啓発を進めていくか継続して協議していく。福津市の児童・生徒の見学であったり、出前講座についても詰めて進める。古賀市で行う研修を福津市に行うことで、情報共有するいいきっかけの1つになると思うのでチャンスと捉えて合わせた啓発ができるよう提案し、一緒にできるものはおこなっていきたい。

[質疑]

委員 : 新型コロナウイルス感染症非常事態宣言発令後、2交代制のシフトを組み運営をしている。民間でもよくある話だが、半分の人間で対応できたので半分で良かったのではないか。実際に全く支障がなくできていたのか、そうなっていくと業務の効率化を考えていった時に半分の人間ができるのではと民間だったら発想してくると思うが、そこがどうなのかという点が1つと、職員の現状のコロナウイルス感染の管理体制について伺う。

[答弁]

海津木苑長 : 現在、3名と4名に分け2班体制で勤務している。水質分析の業務があるが、試験薬を使用し、分析機器を使い窒素・アンモニア等の測定をしているが、現状はパックテストといって機械で測定した値に近いものが出るものを使用して簡単に分析が行えるよう対応している。槽内のMLSS(濃度)については採取して遠心分離機にかけて測定し、水質管理をしている。半分の人間で対応可能かということについては、厳しいと判断する。

職員の健康管理については、自己管理で熱等の異常があれば報告を行うようにしている。毎日の手洗い・マスク・消毒等は徹底して行っている。

[質疑]

副委員長 : 次期し尿処理施設建設について、市の考え方が甘いと思う。危機感がない。まず地元と仮合意くらいはしたらどうか。そうして初めて申請ということになるのではないか。当初と比較すると凄い差があると思う。市がまず案を出さないといけないのではないか。全くそういう気がないのでないか。まず地元と協議を行い仮合意

を取る。そう言った意味で事務局は考えが甘いと思う。次回は方針を出していただきたい。

10. その他

16:55 閉会

※ 次回の運営委員会は、8月を予定している。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

令和2年 月 日

委員長

印

委員長の指名する

出席委員

印